

令和3年度

事務事業点検評価結果報告書  
(令和3年度実施事業)

令和4年5月

中津川市教育委員会

## はじめに

中津川市教育委員会は、平成27年度に「中津川市教育大綱」を策定し、リニア時代を創る市民像として「学び、活かす市民」を目指す姿としました。

ICT化や少子高齢化など社会情勢が急速に変化する現代においても「子どもたちのよりよいひとりだち」のために、子どもたちの「生きぬく力」を育てることを教育方針としています。

この方針に基づいて、令和元年度からの4年を期間とした「中津川市教育振興基本計画 中期計画」を策定し、子供たちの乳幼児期から高等学校を卒業するまでの「育ち」に関わる重要な教育施策や、大人自らが参加でき学べる生涯学習・文化スポーツ事業の着実な推進に取り組んでいます。

本書により、一層効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、令和3年度に教育委員会が実施した主要な事業について、学識経験を有する方など外部の方々のご意見等をいただきながら、点検・評価を行った結果を報告いたします。

また、この点検評価は、教育振興基本計画の進捗管理も兼ねており、コロナ感染症対策を施しつつ、次年度以降の教育施策の推進や改善に反映することで、より着実な計画の実現に役立てていきたいと考えています。

今後とも市議会をはじめ、市民の皆様のご厚誼ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年5月  
中津川市教育委員会



## 1 事務事業点検評価について

### (1) 教育委員会点検評価制度の導入経緯

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成19年6月に公布され、新たに法第26条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

### (2) 教育に関する事務の管理、執行状況の点検及び評価の実施方針

中津川市教育委員会では、法の一部改正を受けて、次のような方針にもとづき、点検及び評価を実施することとしました。

#### 点検評価の実施方法

##### ① 評価対象事業

中津川市教育委員会が令和3年度に実施した、会議・調査活動及び事務事業の中から主要なものを抽出し重点的に評価を実施します。

##### 《令和3年度評価対象事業》

シートNo.	事業名	課名
1	保育士の勤務条件の適正化・保育士の確保事業	幼児教育課
2	キャリア教育の充実事業	阿木高等学校
3	国内姉妹都市交流事業	生涯学習スポーツ課
4	鉱物博物館事業	鉱物博物館

##### ② 一次評価

教育委員会事務局において評価対象事業の自己評価を実施します。

##### ③ 委員会評価

中津川市教育評価委員会において評価対象事業について意見をいただきます。

##### ④ 最終評価

教育委員会が、一次評価及び委員会評価の結果をふまえ最終評価を実施し報告書を取りまとめ、議会へ提出するとともに公表を行います。

### ⑤評価結果の活用

教育委員会は、点検及び評価の結果を、次年度以降の教育目標や基本方針等の策定、その他事務事業の改善等に活用します。

## 教育評価委員会

### ①教育評価委員会の設置

中津川市教育委員会点検評価実施要領の規定に基づき、5名による教育評価委員会を設置します。教育評価委員の任期は1年です。

### ②教育評価委員会の構成

役職名	氏名	公職等
委員	須栗大	第2期中津川市中心市街地活性化基本計画事業委員（大学教授）
委員	朝日美智子	地域ミニコミ誌編集長
委員	小木曾敏樹	中津川市校長会代表
委員	高木誠	中津川市PTA連合会副会長
委員	宍戸昌弘	中津川市保育園保護者会連合会長

## 点検評価の評定基準

### ①一次評価

評価対象事業について成果、反省点、課題、問題点、改善点等の観点から評価を行います。

### ②委員会評価

評価委員会を開催し、①の結果をふまえ、対象事業について審議し意見をいただき、それをもって委員会評価とします。

### ③最終評価

①と②の結果をふまえ、下記により方向性を示したうえで評価を行います。

方向性の判断	
継続	廃止

## 2 令和3年度教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員会会議の開催状況

令和3年4月～令和3年12月 ※教育委員会会議の議案番号は、暦年で番号を付与しています。

付議委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件名
第5回	報第3号	令和3年4月21日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第13号	令和3年4月21日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議第14号	令和3年4月21日 同日 原案承認	中津川市議会（臨時会）に提出する議案の意見について
第6回	報第4号	令和3年5月25日 同日 原案承認	中津川市指定文化財の解除に伴う答申について
	報第5号	令和3年5月25日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第15号	令和3年5月25日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議第16号	令和3年5月25日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会委員の委嘱等について
	議第17号	令和3年5月25日 同日 原案承認	中津川市B&G海洋センター運営協議会委員の委嘱等について
	議第18号	令和3年5月25日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議第19号	令和3年5月25日 同日 原案承認	令和2年度中津川市教育委員会の事務事業点検結果報告書について
	議第20号	令和3年5月25日 同日 原案承認	令和3年度中津川市選奨生の決定について
	議第21号	令和3年5月25日 同日 原案承認	令和3年度岐阜県教科用図書東濃採択地区協議会の設置等について
第7回	議第22号	令和3年6月23日 同日 原案承認	中津川市指定文化財の解除について
	議第23号	令和3年6月23日 同日 原案承認	令和4年度使用中津川市立阿木高等学校用教科用図書の採択について
	議第24号	令和3年6月23日 同日 原案承認	令和4年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について
	議第25号	令和3年6月23日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第8回	報第6号	令和3年7月15日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第26号	令和3年7月15日 同日 原案承認	令和4年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について
第9回	議第27号	令和3年8月19日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第10回	報第7号	令和3年9月17日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
第11回	報第8号	令和3年10月20日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第28号	令和3年10月20日 同日 原案承認	美術品等の購入に伴う諮問について
第12回	報第9号	令和3年11月17日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて

	報第 10 号	令和 3 年 11 月 17 日 同日 原案承認	美術品等の購入に伴う答申について
	議第 29 号	令和 3 年 11 月 17 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議第 30 号	令和 3 年 11 月 17 日 同日 原案承認	令和 3 年度中津川市選奨生の決定について
第 13 回	報第 11 号	令和 3 年 12 月 15 日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会の結果報告について
	議第 31 号	令和 3 年 12 月 15 日 同日 原案承認	令和 4 年度中津川市教職員の定期人事異動方針について

令和 4 年 1 月～3 月

付議委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件名
第 1 回	報第 1 号	令和 4 年 1 月 26 日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第 1 号	令和 4 年 1 月 26 日 同日 原案承認	令和 4 年度中津川市教育委員会主要事業について
第 2 回	報第 2 号	令和 4 年 2 月 17 日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第 2 号	令和 4 年 2 月 17 日 同日 原案承認	中津川市認定こども園の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第 3 号	令和 4 年 2 月 17 日 同日 原案承認	中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について
	議第 4 号	令和 4 年 2 月 17 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第 3 回	議第 5 号	令和 4 年 3 月 2 日 同日 原案承認	令和 4 年度県費負担教職員の任免等の内申について
	議第 6 号	令和 4 年 3 月 2 日 同日 原案承認	令和 4 年度中津川市教育委員会の方針と重点について
第 4 回	議第 7 号	令和 4 年 3 月 24 日 同日 原案承認	令和 4 年度市費負担職員の任免について
	議第 8 号	令和 4 年 3 月 24 日 同日 原案承認	中津川市スポーツ推進委員の委嘱について
	議第 9 号	令和 4 年 3 月 24 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について

## (2) 移動教育委員会の開催状況

移動教育委員会を開催し、教育委員と保護者が意見を交換することで、教育現場に保護者の意見を反映させます。

6 地区で開催しています移動教育委員会について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度と同様に令和 3 年度の開催は中止とし、発達支援センターにおいて 2 回開催しました。

地区等	実施日
発達支援センターどんぐり	令和 3 年 11 月 5 日
発達支援センターつくしんぼ	令和 3 年 11 月 11 日

(3) 総合教育会議の開催状況

市長と、教育委員会で構成され、教育行政の大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置について、協議・調整を行います。

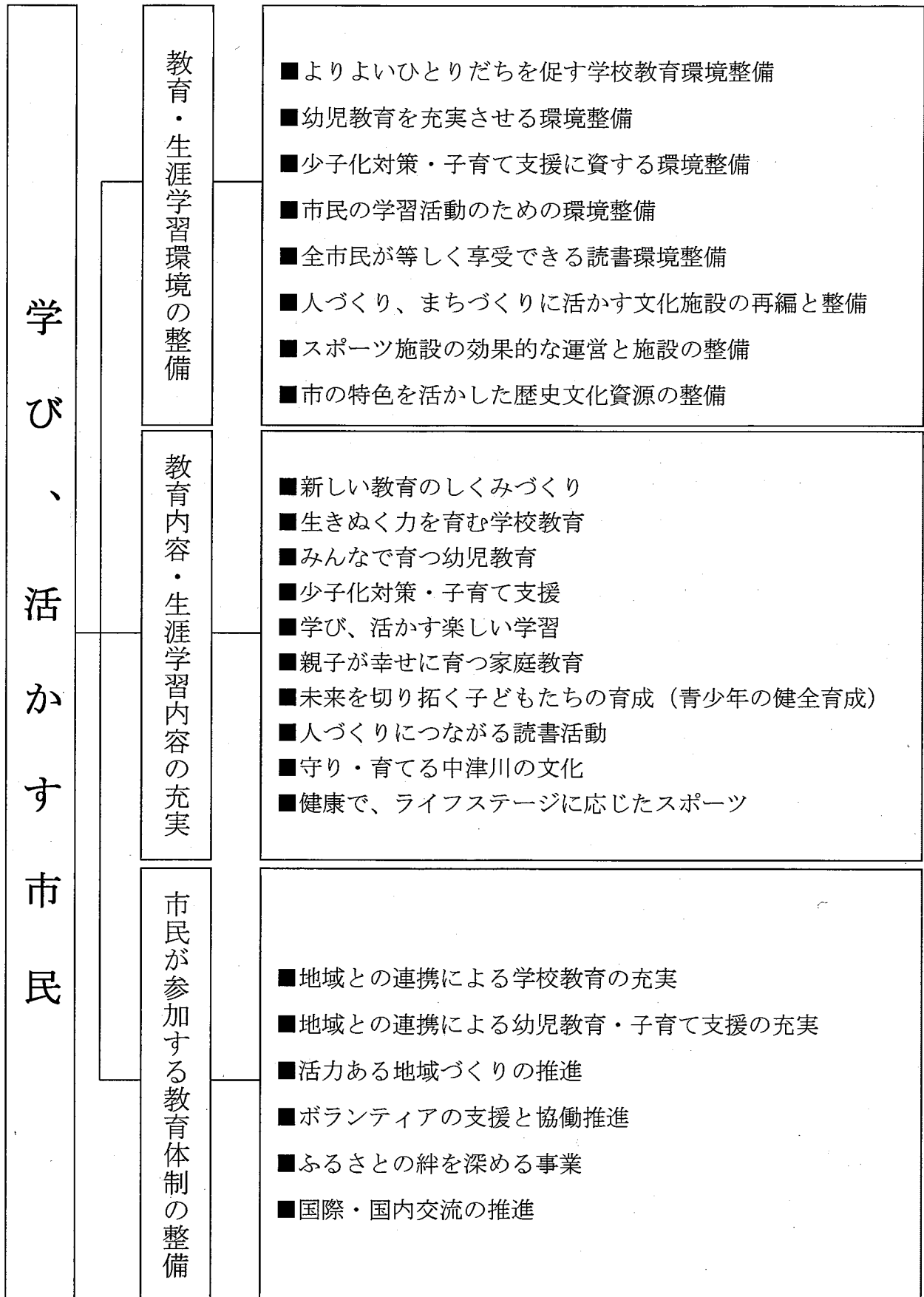
実施日	内 容
令和3年12月24日	報告
	1 幼児教育・保育施設適正配置計画について
	協議
	1 (仮称) 市民交流プラザについて

(4) その他の活動状況

教育委員会協議会、学校や園への授業等の参観、各種委員会・卒業式などに参加しました。



3 中津川市教育振興基本計画の施策体系図



<b>事業名</b>	保育士の勤務条件の適正化・保育士の確保事業	<b>担当課</b>	幼児教育課
------------	-----------------------	------------	-------

**概要説明**

**この事業は**

- ・保育士（正規及び会計年度任用職員）の勤務条件や勤務状況等について、現状課題の洗い出しと勤務環境の改善を進めること。
- ・正規及び会計年度任用職員保育士の適正確保の推進。

を目的とし

■現状課題の洗い出し

①園長代表者会議、園長会議での勤務環境改善と現状課題の洗い出しの検討（毎月開催）

②会計年度任用職員の任用条件調査（アンケート）の実施（年1回）

■勤務環境の改善（R3年度）

①保育士の休憩時間確保（シフト編成・会計年度任用職員の任用等の適正化）

②常雇保育士等の時間外勤務の見直し（常雇保育士等の勤務条件の適正化）

■保育士の確保

①幼保施設適正配置計画の策定（園の統廃合の実施）による保育士不足の解消

②保育士確保に向けた取り組みの実施（修学支援金、大学・高校等との就職支援連携事業、保育実習への協力 他）

計画で進めました。

**令和3年度は**

・実績

【できたこと】

■現状課題の洗い出し

①毎月の代表者会議及び園長会議で各園の勤務状況を共有し現状把握を行った。その中で共通の問題点について、継続して検討。

②11月に会計年度任用職員の任用条件調査（アンケート）を実施。

■勤務環境の改善（R3）

①6月に休憩時間取得状況調査を行い、現状を共有。スムーズな休憩取得に向けて問題点の洗い出しと改善に向けた検討を実施。

②常雇保育士の勤務条件と処遇の区分化を行い、時間外勤務を行わない常雇保育士の任用について園長会で協議したがR3年度は実現できず未達成。

■保育士の確保

①R3年5月に幼児教育・保育施設適正配置計画を策定。

②市内高校へパンフレットを配布し修学支援金貸付制度を周知。R3年度新規利用者8名。

・7/29、県保育士・保育所支援センターと連携して「保育のお仕事見学会」を実施。市内 高校生8名が参加。

【できなかったこと】

・勤務環境の改善（休憩時間の取得や時間外の削減など）に対する園長はじめ職員の意識改革がまだ不十分で、園によっても取り組み状況にばらつきがある。

という結果になりました。

**一次評価（担当者による自己評価）****◆良かったこと（成果）**

- ・勤務環境の改善や保育士の確保など、現状の把握と分析をする中で、保育士の「量」ではなく、自分たちで仕事内容の見直しや工夫が必要であるといった「質」の必要性に気づくきっかけになった。

**◆課題・問題**

- ・保育士配置や勤務条件の適正化については職員の意識改革が不可欠であるが、長年の習慣や考え方はすぐには変えられるものではない。
- ・また園組織では、園長や先輩保育士の影響を受けやすいので園によって考え方や取組にばらつきがある。（ローカルルールが存在する。）

**◆今後どうしたいか**

- ・事業を推進するために、職員の意識改革と人材育成を継続的に進める必要がある。研修会や勉強会など、社会の流れや最新の考え方を学ぶ機会を増やしていく。

**◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）**

- ・職員の意識改革は、職員のスキルアップにつながり、その能力を発揮することで勤務環境を改善することができる。
- ・勤務環境の改善で、楽しく働く場がくれ、大切な人材の離職を防ぐことができる。
- ・職員がやりがいをもっていきいきと保育に携わることができれば、保育内容が充実し子どもたちの健やかな成長に直結する。

**評価委員会審議内容****◆事業についての質問**

▶現場の保育士の感想はどうか。

- ・会計年度任用職員には、シフトに休憩時間を組み入れたことで、好評と聞いている。

▶現状で保育士が足りていないのか。

・足りていない。園児数は減少しているが、未満児の保育のニーズが上がっている。また、支援が必要な園児が増えており、その園児に関しては加配保育士とあって、一人ずつ保育士をつけていくことをしている。その関係もあり不足している。

▶市内で、どのくらい足りないのか。

- ・現在、保育士は324名おり、現場はひっ迫している状況である。

**◆良いところ**

・保育士が園が変わることによって、条件が変わらないように市内統一のルールで働けるような取り組みができています。

・幼児教育・保育施設適正配置計画の策定により、市民にとっても先の見通しが立てられることは非常に大事なことで評価したい。

**◆課題、問題点**

・正規の保育士については、一時間丸々休憩が取れるところまで改善はされていない。

・この取り組みをしていることで、正規の職員に負担がかかっていないかということ心配する。

◆意見

・園長会やアンケートを行うことで、園の状況や実態を把握し、休憩時間の確保に改善が見られたことは評価できる。正規保育士が中々休憩を取れていない状況については、幼児教育・保育施設適正配置計画を進めていく中で、園の統廃合と合わせて保育士確保に努めて改善して欲しい。また、正規の保育士に負担がかからない取り組みを引き続き行って欲しい。

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 10px; display: inline-block;">                 継続             </div>	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

➤保育士の確保は、勤務条件の適正化にも結び付くため非常に大事である。また私立の保育園では上手に休憩を取っているため、休憩時間の取り方も含め、交流・連携を深め、互いの長所を学び取り、園の運営に活かして欲しい。

事業名	キャリア教育の充実事業	担当課	阿木高等学校
-----	-------------	-----	--------

### 概要説明

#### この事業は

- ・生徒が**自己理解を深める**キャリアカウンセリングを行うこと。
- ・生徒や保護者が将来において**社会人として尊厳ある生活を送れるような進路選択**ができるように導くこと。

を目的とし

- 生徒や保護者に対するカウンセリング（230時間）
  - ①1・2年生及び4修制3年生の自己理解を深めることや進路意識の植え付けを行うカウンセリングを入学時から行う。
  - ②卒業見込生徒の企業分析や就活準備及び実践の支援とカウンセリングを行う。
- 生徒への面接・マナー指導など就職指導（160時間）
  - ①採用等試験準備の支援を行う。
  - ②面接指導を集中的に行う。
- 求人開拓や企業訪問など外部とのコーディネート（15時間）
  - ①企業訪問による新規求人開拓や卒業生の定着支援を行う。
- 教職員対象のキャリアカウンセリング研修（4時間）
  - ①教職員の資質向上をめざした研修会を行う。

計画で進めました。

#### 令和3年度は

##### ・実績

##### 【できたこと】

- 生徒や保護者に対するカウンセリング
  - ①全生徒に2回ずつ計184回のカウンセリングを行い、自己理解や進路選択の導きができた。内保護者同伴のカウンセリングを1回行った。
- 求人開拓や企業訪問など
  - ①11/30に企業見学ツアーに参加し、求人開拓のきっかけとした。また、12月の企業訪問時に卒業生の様子を確認し定着支援を行った。
- 教職員対象のキャリアカウンセリング研修
  - ①7/30に教職員対象のキャリアカウンセリング研修を行い、教員が卒業見込生徒に一人20回を目標に行う面接指導などの資質向上に努めた。

##### 【できなかったこと】

- ・8月後半から7日間で160時間予定していた集中面接指導が、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令の影響で、2日間64時間しかできなかった。

という結果になりました。

**一次評価（担当者による自己評価）****◆良かったこと（成果）**

- ・平成23年度は3月末の内定率が67%であったが、本事業に取り組み始めてからは上昇し、平成29年度から令和2年度まで100%となっている。
- ・新卒者の9月末離職率が平成23年度38%、平成24年度75%であったが、本事業に取り組み始めてからは減少し、令和元年度8%、令和2年度7%となっている。

**◆課題・問題**

- ・自己理解があいまいなまま就職し、早期離職となる生徒を0にはできていない。
- ・保護者も困りごとがあるが、それに気づけていない家庭が年々増加している。

**◆今後どうしたいか**

- ・自己理解が困難な生徒が年々増加しており、1年生の段階から取り組む個別支援を重点的に行っていききたい。

**◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）**

- ・困りごとを抱えて入学してきた生徒が、キャリアカウンセリングなどを経験して自己理解を深め尊厳ある生活を送れる進路選択に繋げている。
- ・普段接していない人と向き合うことで、自己理解をより深めることができているので、外部のキャリアカウンセラーの存在は欠かせないものとなっている。

**評価委員会審議内容****◆事業についての質問**

▶進路指導の先生との役割分担や連携は、どうしているのか。

・キャリアコンサルタントは、生徒が興味のあること、出来ることや出来ないことを、雑談に交えながら話を聞いてもらう形を取っている。進路指導の先生は、キャリアコンサルタントと情報共有しながら、計画を立てて、実際の進路をどうするかという細かい指導をしている。

▶複数のキャリアコンサルタントが入っている効用は、なにかあるのか。

・同時に複数の生徒の対応ができることと、状況によって担当変更が可能なことである。

▶教職員へのキャリアカウンセリング研修とあるが、面接指導のスキルアップをしているのか。

・研修を受けた先生が、放課後に担当する生徒と面接や進路指導を行い、スキルアップしている。また、2月に先生自身が面談をして困ったことなどの相談を受けている。

▶教員と生徒との二者面談や、保護者を交えた三者面談を行っているか。

・長期休暇の前後に行っている。

**◆良いところ**

- ・内定率が、平成23年3月末と比べると100%に上がっており、離職率が下がっている。
- ・生徒と就職先の理解も、この取り組みで進んでいると思う。

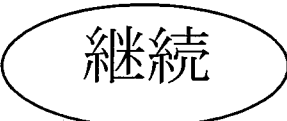
## ◆課題、問題点

- ・離職率をまだ0%にはできていないことである。
- ・キャリアコンサルタントとしては、高校生の場合、経験を持つ機会が少なく、カウンセリングで自己理解を深めることが難しいと思う。

## ◆意見

- ・阿木高校では、困りごとのある生徒が多く、1年生の段階から個別支援を重点的に行っている。生徒の自己理解とともに受け入れる就職先の理解もこの取り組みで進んだことで離職率が減ったのかと思う。離職率を0%にするべく、より一層生徒と向き合い自己理解を深めることが必要であると思う。

## 最終評価

方向性の判断	
	廃止

いずれかに○をつける

## 【評 価】

▶自己理解を深めることはこれからの人生設計の一步となり、非常に良い取り組みである。また、就職率が上がり、離職率も下がっていることも評価する。ただし、離職率0%というのは、課題としてふさわしくないと考える。数字ではなく、子供たちの行く末を重視し、一人ひとりに丁寧なカウンセリングを継続して行って欲しい。

<b>事業名</b>	国内姉妹都市交流事業	<b>担当課</b>	生涯学習スポーツ課
------------	------------	------------	-----------

### 概要説明

#### この事業は

- ・昭和48年に島崎藤村が縁で、旧山口村と小諸市及び大磯町が、また、平成8年にヒトツバタゴが縁で、旧蛭川村と対馬市（旧上対馬町）が姉妹都市提携を締結。
- ・互いに交流することで、相手先のまちの魅力や個性に触れ、郷土の魅力を再認識し人づくり、地域づくりにつなげる。

#### を目的とし

- ・対馬市との交流：毎年、夏休み（対馬市で交流）と冬休み（中津川市で交流）に小学生同士が交流し、また一般市民も互いのイベント時に交流を実施。
- ・小諸市、大磯町との交流：毎年、7月に大磯町、11月に小諸市のイベントに参加し、特産品販売、観光PRを実施。

#### 計画で進めました。

#### 令和3年度は

##### ・実績

##### 【できたこと】

- ・対馬市との交流では、2泊3日で、夏に当市の小学6年生11名が対馬市へ、冬には対馬市から小学5・6年生20名が当市を訪れ、蛭川小6年生13名と交流。  
交流内容：対馬市では、海の体験交流、対馬野生生物保護センターで自然学習。  
中津川市では、スキー教室、市内宿泊先での交流会。  
\*事業を主催する蛭川地域の対馬交流協会へ補助金536千円を交付。
- ・小諸市及び大磯町との交流では、両市町のイベントに参加し、特産品販売や観光PRを実施。  
\*事業を主催する馬籠地域の一般財団法人藤村記念郷へ、補助金9万円を交付。

##### 【できなかったこと】

- ・令和2年度及び令和3年度は、新型コロナの影響で事業中止。  
(対馬市とは、学校田・畑で栽培したもち米（きねふりもち）と野菜を対馬市へ送り、学校給食で提供され、お礼状が蛭川小学校へ届いた。)

#### という結果になりました。



**一次評価（担当者による自己評価）****◆良かったこと（成果）**

- ・山と海の環境が異なる地域の交流ができ、子ども達の見分が広がった。
- ・子ども達の交流時に、互いの紹介を行い、郷土の魅力を認識することができた。
- ・当市の特産品販売、観光PRを多くの方にできた。

**◆課題・問題**

- ・小諸市及び大磯町との交流は、主にイベント時の特産品販売、観光PRとなっている。相手先は、子ども達の交流を行うことは考えていない。そのため、この交流内容であれば、本来、所管は商工観光部である。
- ・国内姉妹都市交流の事業内容が、多方面への広がりを見せており、事業担当課以外に全体を統括する部署が必要と考える。

**◆今後どうしたいか**

- ・対馬市との交流は、子ども達の交流が主であり、当課が所管する青少年健全育成の観点から当課が引き続き事業を継続します。
- ・小諸市と大磯町との交流は、現在、大磯町で2市1町による経済に関する包括協定を検討中であることから、特産品販売、観光PRが主である、商工観光部への事業の移管を考える。

**◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）**

- ・対馬市とは小学生同士の交流を平成7年から継続し、自然体験などの機会を提供し、人間性、社会性の育成に寄与している。
- ・姉妹都市交流事業が縁で、平成17年に小諸市、大磯町と災害時相互応援協定を締結。

**評価委員会審議内容****◆事業についての質問**

▶市民には、このような交流をしていることを、どう周知しているのか。

・各公民館へ募集要項を配布するなどして、蛭川小学校の児童だけでなく、他校の児童も希望すれば参加できるような形を取っている。

**◆良いところ**

・生活環境の違う小学生と交流することは、子供たちにとって思い出にもなり、良い取り組みだと思う。

**◆課題、問題点**

・交流していることを知らない市民も多いため、市民に対してのPRや周知を強化すべきである。

・コロナ禍で中止となっていることは、別の方法でも交流を考えるべきである。

**◆意見**

・中津川の認知力を高めるために、市民へPRや周知を強化していくことが大事である。

・コロナ禍で中止となっている子供たちの交流については、ここまで続けてきた事業でもあるため、オンラインで行うなど継続して交流が行えるよう検討して欲しいと思う。

## 最終評価

方向性の判断	
継続	廃止

いずれかに○をつける

## 【評 価】

▶ 対馬市との交流については、市民向けにアピールをしながら、蛭川だけではなく中津川市の子供たちも含めて、交流の輪を広げていくと良いと考える。大磯町と小諸市との交流については、子供たちの交流がないのであれば、藤村文芸大賞に移行することも検討していくなど内容や方法を改善しながら継続して欲しい。

<b>事業名</b>	鉱物博物館事業	<b>担当課</b>	鉱物博物館
------------	---------	------------	-------

**概要説明**

**この事業は**

- ・他にはない学術的にも貴重な標本資料を後世に伝える。
- ・活断層がある市として、地震・活断層など自然科学に対する市民へ啓発する。

を目的とし

- ・自然科学に関する企画展示や個人・団体との共同企画展示を開催します。
- ・自然科学に関する教室や夜明けの森での体験教室などを開催します。
- ・学校と連携し、校外学習・学習相談などの学習支援を行います。
- ・博物館友の会や博物館ボランティアの活動支援に取り組みます。
- ・より身近で、楽しめる博物館活動を展開します。

という計画で進めました。

**令和3年度は**

- ・ **実績**  
**【できたこと】**
  - ・共同企画展示1回を開催しました。当館の企画展示も中津川えほんジャンボリー、市立図書館とのコラボ企画で実施しました。
  - ・教室等17回、夜明けの森での体験教室7回を開催しました。
  - ・校外学習の受け入れを実施しました。
  - ・友の会を中心とする実行委員会に協力し、ミニフェスタを開催しました。(来場者449人)
  - ・ボランティアガイド養成講座5回開催しました。(延べ受講者32名)
  - ・外部から講師を依頼され出前講座を行いました。(2回・延べ受講者84名)
  - ・令和元年度から続くコロナ禍の中、集客が難しくなっていることから、ホームページ内に来館できなくても展示品を紹介する「WEBミュージアム」を開設しました。(7コンテンツ)
  - ・来館いただいた方には、収蔵品管理システムを利用したアプリ「ポケット学芸員」を導入し、自身のスマートフォンで展示品の説明を見ることができるようになりました。(10点)**【できなかったこと】**
  - ・コロナ禍で、教室等の開催回数が減りました。
  - ・校外学習での来館校が減り、来館者数も減りました。

教室等比較

	H31	R2	R3
教室等開催数：回	52	10	24
参加人数：人	1,452	160	513

## 団体学習比較

	H 31		R 2		R 3	
	団体数	来館者数	団体数	来館者数	団体数	来館者数
市内	5	151	4	135	5	158
名古屋市	30	2,141	1	59	8	647
他地域	0	0	1	26	2	43
中・高	8	75	1	4	1	17
大学等	5	121	2	42	6	109
幼・保	2	135	6	301	4	209
公, 図, 博	4	72	0	0	1	13
その他	19	470	7	138	10	114
計	73	3,165	22	705	37	1,310

市内・名古屋市・他地域、は小学校

公, 図, 博、は公民館・図書館・博物館

その他団体、は子ども会・学童保育・教育委員会関係・行政関係等

\*今年度は12月末現在

という結果になりました。

### 一次評価（担当者による自己評価）

#### ◆良かったこと（成果）

- ・WEBミュージアムの開設により来館できなくても、自然科学に触れ、興味を持てるようにできました。
- ・アプリ「ポケット学芸員」の導入により来館できた方は他者と非接触という状況で詳しく鉱物についての説明を見ることができるようになりました。

#### ◆課題・問題

- ・来館していただけるよう興味を持っていただけるまでに、ホームページに公開できるコンテンツの数があまり増やせていないこと。
- ・アプリを利用して説明が見られる標本数が増やせていないこと。
- ・文字による解説のみで、音声ガイドまで導入できていないこと。

#### ◆今後どうしたいか

- ・Wi-Fi設備を整備し、来館者が展示品の詳細を自身で確認できる環境づくりをしたい。
- ・ガイドボランティア等の協力を得て、博物館の魅力を多くの方に発信したい。
- ・鉱物博物館のみでなく、他の美術館・博物館でも「ポケット学芸員」などを導入し、来館につなげたい。

#### ◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・withコロナ、ニューノーマルといった新生活様式の中にあっても、博物館や自然科学に興味を持ち、来館に繋がられるようなデジタル技術の活用にも取り組んでいるところです。

**評価委員会審議内容**

◆事業についての質問

▶まちづくり協議会が行っているイベントや、地域の方が行っている「はじめの一步」など、自然の中での活動とのコラボイベントを行う予定は今後ないのか。

・「はじめの一步」は当館の事業で、現在、地域在住の岐阜県シェアリングネイチャー協会の方の協力を得ながら取り組んでいる。また、ボランティアガイドの養成講座をしており、その方たちが外へ発信したり、次の企画展に関わっていける仕組みにも取り組んでいる。地元の方たちとの交流や協力については、今後さらに行っていけるように考えている。

▶学校で、例えば鉱物を採りに行くワークショップなどを行っているか。

・鉱物を含む土は苗木財産区から無償でいただくので、一般の方で採りに行くのは難しい。小さいお子さんのいるお母さん方に、石や木・花に触れていただく教室や、夜明けの森内で、ミステリーツアー、川での水遊びといった体験は行っている。ご協力いただける場所があれば、今後もどんどん広げていきたい。

◆良いところ

▶ポケット学芸員の導入は、興味のない人でも関心が持てるきっかけを作れるので良いと思う。

◆課題、問題点

▶体験型のイベントが増えると、もっと低い年代にも広がっていくのではないかと思います。

▶有料の体験プランやツアーがあっても良いのではないかと思います。

◆意見

・自然科学に興味を持ってもらうためには、どこかとコラボをすることは非常に大事だと思う。また、お金を払ってでも体験したいという方は沢山いるはずなので、宿泊された方が地域の鉱物を学ぶ体験ができるプランやツアーを様々なところに提供するのでもいいのではないかと思います。今後、様々な形での企画やコラボに期待したい。

**最終評価**

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 24px; font-weight: bold;">継続</span> </div>	<span style="font-size: 24px; font-weight: bold;">廃止</span>

いずれかに○をつける

**【評 価】**

▶館内にある「ストーンハンティング」が子供に人気である。子供たちにとって、これからも鉱物を楽しめる場所であって欲しい。コラボについては、鉱物にこだわらず、思いつかないようなところでコラボすると良いのではないかと考える。来ていただいた方が鉱物に興味を持つきっかけや色々な発見ができると考える。鉱物博物館は、他の博物館を先んずる躍動感がある。これからも斬新な取り組みに挑み、それを他の博物館に伝え、全体の活性化を図るリーダーとなることを期待する。

過去に評価を受けた事業の現状（平成20年度～令和3年度）

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
1	R2	1	スクール・サポート・スタッフ配置事業 【学校教育課】	県のスクールサポートスタッフ配置事業により25校に45名を配置し、コロナ感染症対策の人的体制を整備した。 【評価内容】 教職員の働き方改革を進める上で、本来、先生達にやってほしいことに軸足を置いてもらい、労働時間を軽減するためサポートしていくことは、大変効果的である。	継続	スクールサポートスタッフ配置事業により、22校の42名を配置。前年に続きコロナ対策、教員の事務支援のために整備した。 コロナ禍におけるなくてはならない事業となっている本来の教師の働き方改革にシフトできると良いが感染症が落ち着くのが待たれる状況である。	
2	R2	2	幼児教育・保育施設適正配置計画作成事業 【幼児教育課】	園児の育ちに望ましい適切な集団規模を確保し、様々な保育ニーズに答え、安全・安心で快適な保育環境を確保する。 【評価内容】 この計画を作成されたことが評価できるという意見に同意した。今まで幼保では発信しなかったもので、この計画を作成・提示して目を向けてもらうことが大事であり、非常に価値のあることである。	継続	・R3年5月に「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画」を策定。R3年度から12年度までの10年間の計画とし、公立園のこども園化、園の統廃合（20園を12園に。民営化、指定管理含む）などを基本方針とした。 ・計画を踏まえ、各地域への説明会を順次実施中。（地域の区長会、保護者会、まち協等）	
3	R2	3	中津川市青少年なやみごと電話相談室事業 【生涯学習スポーツ課】	・18歳未満の主に小学生から高校生までの青少年を対象として、経験豊かな元教職員の相談員へ様々な悩みを相談できる電話相談窓口を開設している。 【評価内容】 他市ではLINEを活用して相談数が増えている。中学生以上はほとんど電話をしない現状もある。子供たちが相談しやすい環境の進化に期待したい。	継続	市内の小学5年、中学1年に電話相談カードを配布。 市内小中高、市内13公民館にポスター配布と掲示依頼。 こどもSOSメールとの連携。	
4	R2	4	前田青柳等絵画収集事業 【文化振興課】	前田青柳の偉業を顕彰し次世代に伝えるため、画伯の貴重な作品を取得し展示していく。収集基金の積立額は、R2.10月で80,031,842円。作品数は、本画28点、下図24点、スケッチ57点。 【評価内容】 郷土に著名な作家がいることはすばらしい。長年に亘り積み立てをしながらか作品を収集していく活動・事業も貴重である。	継続	・遠山史料館で「青柳画伯の企画展」を開催。 会期：6/26～7/25 観覧者：1,137人 ・前田青柳の偉業を顕彰し、次世代に伝えるために必要な画伯の作品3点を収集した	
5	R1	1	中津川市の未来を担う人材育成事業 【学校教育課】	「命の教育」「生徒会サミット」「岐阜サマー・サイエンス・スクール」「すご技プロジェクト」を開催し、児童生徒に広く学び、交流する機会を提供する。 【評価内容】 どの事業も中津川市の特色ある教育の姿を表現できている。また、教育委員会以外の諸機関の協力を得て成り立っていて、今後も協力を得ながら継続してほしい。	継続	・「生徒会サミット」は中止、「岐阜サマーサイエンススクール」はオンライン開催で実施。 ・命の教育については、夏の幼保小中合同研修会は中止になったが、「助産師による命の授業」及び「授業研究会・実践交流会」は行った。 サミットは中止されたが、サマーサイエンスはコロナ禍におけるオンライン開催になり新たな方向性が出た。	
6	R1	2	保育士等確保対策事業 【幼児教育課】	保育ニーズが増大する中、保育士等修学支援金制度や採用試験の受験資格の緩和等を実施し、安定した幼児教育・保育の提供体制を整える。 【評価内容】 支援制度は、5年勤務すれば中津川市で勤務してもらえるいい制度である。中学生から進学先をアピールしていることは計画性があって非常にいい。	継続	・R3年度保育士修学支援金新規貸付者8名。 ・高校生対象の保育の仕事見学会を県と連携し実施。参加者8名。	
7	R1	3	苗木城跡整備事業 【文化振興課】	石垣・道・看板等の修復、史跡内の遺構調査や整備を行い、中津川市の宝として後世へ守り遺す。 【評価内容】 中津川市をアピールする重要な拠点の一つ。今後も来場者の増加が期待できる。看板の設置や通路の整備を継続してほしい。	継続	令和4年度に実施する「大口口道石垣修復工事」の基礎資料となる、石垣立面図の作製を行う。 面積：48㎡	
8	R1	4	子ども科学館事業 【鉱物博物館】	子供たちの科学への興味・関心を高めるための展示・教室・イベント等の充実を図る。 【評価内容】 様々な活用促進のためのアピール方法がある。これらを実現するための工夫に期待する。	継続	・令和3年度（10月末現在）における入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で休館期間がある中、7,215人で対前年比157%と復調の兆しがみられる。	
9	H30	1	学力向上支援事業 【学校教育課】	各学校の児童生徒や教職員の実態を把握し、支援・指導を行う。 【評価内容】 学校全体の落ち着きがこの事業の成果に上げられているが、卒業式を拝見してもその成果が感じられ感銘を受けた。岐阜県下で一番の手厚い人数配置がされ、子どもたちのケアができています。	継続	【内容】 ・学校と家庭の連携プログラムにより、生活習慣や学習習慣の向上は図り、早寝、早起き、テレビ、ネット等の関わりを毎年調査を行う。 ・学校規模・児童、生徒数、県費学校職員では足りない手厚い配置を実施。・学力アッププログラムにかかわるシート作成 【実績】 ・幼保小連携事業実施 ・さらさ講師A人（英語担当）4人、さらさ講師B 18人、介助員5人、介助員（旧嘱託）3人、特別支援アシスタント64人、学校司書9人、英語指導助手3人の配置 【学びの補償対策（国2次補正対応）】 ・スクールサポートスタッフ 42名	
10	H30	2	公立保育所事業（田瀬保育園、下野保育園統合） 【幼児教育課】	田瀬・下野保育園を統合し、下野保育園での保育を行う。 【評価内容】 統合して活気が出て良かった等の意見がたくさんあり良い結果を得られている。	廃止	統合により適正規模を確保し、活気のある保育ができています。 下野保育園統合（平成29年度）	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
11	H30	3	児童発達支援・保育所等訪問 支援事業 【発達支援センター】	親子通所を基本に、個別指導やグループ指導による療育指導を行う。園生活の中で困り感のある児童に対し、保護者の同意を得たうえで、集団生活に適應できるための支援を行う。 【評価内容】 園の保育士と発達相談員との連携が上手になってきた。保護者に大変良い評価をいただいている事業である。	継続	幼児検診、発達相談により通所につながり個々に合わせた支援指導を行った。 通所児童数（11月現在）つくしんぼ 130人 どんぐり 68人 専門療法士による発達段階に合わせた療育指導。 保護者支援のための講演会、座談会及びペアレントトレーニング。 発達支援関係職員の連携、共通理解を深めるための職員研修の開催。 保育所等の集団での生活の課題を専門的にアドバイス。	
12	H30	4	体育施設維持管理事業～弓 道場の統廃合～ 【生涯学習スポーツ課】	市内の弓道場6施設を3施設に集約する。 【評価内容】 多くの体育施設、公民館等があり、今後も維持管理費削減のためマスタープランにより統廃合、地域移譲をすすめていかないとけない。	継続	令和元年度から市内の弓道場6施設が3施設に集約した。	
13	H29	1	特色ある教育の推進 ～すご技中津川 プロジェクト～ 【教育研修所】	行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すご技企業見学」を実施。 【評価内容】 子どもたちにとって良い事業であるとともに、企業側にとっても「知ってもらおう」という意味では非常に良い事業である。働き甲斐の重要性やふるさと中津川の技術力を学ぶとともに産学官が連携し、小学校からのキャリア教育が進められている。	継続	【内容】 行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すご技企業見学」を実施。 【実績】 ・児童・生徒を対象に市内協力企業14社で実施 10月20日～1月19日 市内全小学校18校5年生で実施 市内小学校3校6年生で実施 市内中学校3校1年生で実施 延べ参加人数 1,141人	
14	H29	2	放課後児童クラブ運営事業 【子ども家庭課】	20ヵ所の放課後児童クラブへ委託費による運営支援と施設整備。 【評価内容】 今の時代において必要不可欠な事業である。29年度には指導員の処遇改善がされるとともに、課題であった横のつながりも代表者懇談会などで情報交換を行うなど取り組みが進んでいる。	継続	22ヵ所の放課後児童クラブへの委託費による運営支援を実施。神坂地区より落合学童への移送を実施（2名利用）。	
15	H29	3	B & G海洋センター運営事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ活動の拠点として活用。 財団の助成を活用した修繕の実施。 コミュニティ拠点とするための活用。 【評価内容】 地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点としてだけではなく、近隣の学校も有効に利用している。当面は継続するが、市民の理解が得られるよう運営や施設の活用面において研究や検討が必要である。	継続	地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点として、計画的な修繕に取り組んでいる。今年度は加子母B & G海洋センターで大規模改修を実施。	
16	H29	4	小中学校への配本事業 【図書館】	学校要望に沿った図書資料の提供。 【評価内容】 十数年前では考えられないような学校との連携が進み、学校と図書館との距離がぐっと縮まる取り組みである。 年々利用が拡大し、子どもたちの幅広い情報収集につながっている。	継続	配本箇所は、中学校全12校、小学校全18校、幼稚園・保育園7園 ・配本冊数（貸出）は11,698冊 ※数値は令和3年11月末現在	
17	H28	1	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	地域協議会を設置し適正化に努める。 【評価内容】 次代を担う子どもたちのよりよい学校教育の環境づくりを目指している事業であり、力を入れる必要がある。 集団の中で生きていくための社会的な力を身につけるためには、学校規模等の改善が急務である。	継続	【新ふくおか小学校】 令和5年4月の小学校開校に向けて協議・調整を継続しています。 ・令和3年度の統合準備委員会の協議状況 統合準備委員会1回、総務部会2回、学校運営部会1回、環境整備・PTA部会2回 ※その他、各部会の分科会や保護者向け説明会などを実施 ・令和3年9月に建設工事（建築・電気・機械）を契約（令和5年2月完成予定） ・10月安全祈願祭、近隣説明会を経て着工	
18	H28	2	美術展開催事業 【文化振興課】	郷土の偉人の名（前田青邨・熊谷守一）を冠した全国公募展をそれぞれ3年に1回開催。 中津川市民展を毎年開催。 【評価内容】 学芸員の活躍が功を奏しており、学校への訪問等が良い観点である。 市民展については、小中学生の出品も取り入れ拡大を図ると良い。	継続	・第69回中津川市民展開催 会期：11/20～11/28 場所：にぎわいプラザ5F 観覧者：997名 出品作品数：232人 ・第12回熊谷守一大賞展開催 会期：12/5～12/16 場所：アートピア付知交芸プラザ 観覧者：516名 出品作品数：278作品（うち61作品展示）	
19	H28	3	読書推進ボランティア養成 【図書館】	養成講座の開催。 ボランティア等の活動支援。 【評価内容】 ボランティア団体が学校や図書館（室）等で活発に活動している。 「絆プラン」や「美術展開催事業」についても連携しながら進めることができる。	継続	本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止等により、講座を中止とした。 ・読み聞かせ初心者向け講座【中止】 ・読み聞かせスキルアップ講座【中止】 ・図書館サポーター 図書修理、イベントのサポーター等【随時募集】 ・ジュニアサポーター 活動日 毎月第2土曜 （今年度は4・7・11月開催） 登録者数 7名 基本活動日以外に児童向けイベントのサポート（7、11月）	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
20	H28	4	絆プラン 【教育研修所】	朝読書の推進。 読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。 図書貸し出し推進。 東農地区学校図書館賞審査参加推進。 【評価内容】 「読書による人づくり」としてH24から続けている。個人の温度差は感じるがやり続けることが大事であり、続けることによって見えてくるものがある。 読書は学習面だけでなく疑似体験ができるすばらしいツールである。相手の立場に立って考える力を高めることにより、いじめ対策等につながる。学校での朝読書は、落ち着いた学習のスタートがきれる効果や気持ちを集中させる効果などがある。 読書をする習慣をつくるのが大事である。	継続	【内容】 朝読書の推進。 読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。 図書貸し出し推進。 東農地区学校図書館賞審査参加推進。 新型コロナ感染防止対応により、通常の貸出や取組の困難さはあるが、学校規模等に応じた取組をしている。 【実績】 学校図書9名 小学校平均貸出し冊数94.6冊 中学校平均貸出し冊数26.6冊 学校図書館教育賞参加校 令和2年度実績3校(総合優秀賞1校・優秀賞1校・奨励賞1校)	
21	H27	1	学力を高める授業づくり 【教育研修所】	学力定着状況の分析。 授業方法の指導。 研究発表会の開催。 【評価内容】 よりよい授業づくりのための指導のポイント5項目は、指導項目がさらに明確になり、先生の授業力アップにつながる。先生の意識改革にもつながり、この取り組みをさらに充実し継続してほしい。	継続	【内容】 授業方法の指導。 研究発表会の開催。 【実績】 令和3年度は7校実施 苗木小、加子母小、坂本小、山口小、坂本中、福岡中、神坂幼稚園	
22	H27	2	一部保育園の民営化の推進 【幼児教育課】	小鳩保育園の民営化。 【評価内容】 今回初めて民営化ができるのでこれを元にしてしっかりデータを残し次ににつなげて市全体の保育の充実につながるよう継続してほしい。	廃止	小鳩保育園の民営化については、丁寧な引継ぎ保育を行い、スムーズな移行ができたことから、評価対象事業としては廃止する。 →2に統合する。	
23	H27	3	地域活動のキーパーソンや コーディネーター等の人材 育成 【生涯学習スポーツ課】	県の人材育成事業を活用した講座の実施。 実践講座の実施。 【評価内容】 地域のコミュニティーは子育てにとってもとても大切なものである。既存組織の活用や、誰に声をかけていくかが大事である。コミュニティーの意識が希薄になってきており、目標、着地点を明確にして継続してほしい。	継続	小中学校のコミュニティースクールの推進に伴うコーディネーターの育成。 県の講座に令和2年～令和3年度9名が受講。 各地域で地域と学校をつなぐ推進員として活動を始めた。	
24	H27	4	博物館事業 【鉱物博物館】	博物館の特徴を生かした教室・講座等の開催。 利用者の学習支援。 【評価内容】 学校や事業所への出前授業、出前講座はこちらから出向くという点では、とても効果があると思う。子どもたちに興味を持たせるきっかけにもなり今後も継続してほしい。	継続	博物館5館の令和3年度（10月末現在）における教室・講座等、講演会、団体学習支援の実施状況は、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの復調の兆しがあり、135件、2,998人で対前年比件数は125%、人数は150%となった。うち、出前事業は7件、181人で対前年比件数116%、人数は220%となっている。	
25	H26	1	学校給食施設整備計画策定 事業 【施設計画推進室】	平成27年度までに学校給食施設整備計画策定委員会を開催し学校給食施設整備計画を策定する。 【評価内容】 ひとつの選択として公設民営化も視野に入れ、継続してできるだけ早い時期に計画を立てて進めてほしい。	継続	学校規模等適正化事業へ移行。	
26	H26	2	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	教員のスキルアップを図るための研修の実施。 【評価内容】 よい授業をする教員は子どもにとって魅力があり、そういう教員を見れば子どもが「教員になりたい」と思う。教員がレベルアップしないと子どもたちに反映されない。したがって教員の学ぶ場を掴むことのないようにしてほしい。 研修を充実させるためには予算が必要である。費用を抑えるのではなく、予算をもっと獲得できるように工夫しながら継続してほしい。	継続	【内容】 教員のスキルアップを図るための研修の実施。 【実績】 ※事業名変更 【現在：研修所事務事業】 教育実践講座(夜学)年間10回計画したが、コロナ感染症対策の影響もあり、5回の開催となった。対象者75名参加	
27	H26	3	生涯学習活動の推進 (ボランティア制度事業) 【生涯学習スポーツ課】	サポーター活動の推進。 ポイントの対象となる作業活動の選定・募集。 【評価内容】 ボランティアで何かやることは自己実現になるものがあり、生涯学習として大事なこともっと、やりがいを感じられ、たくさんの人に参加してもらえる事業になるようにPRをして広げ、ボランティア作業の内容も楽しいことややりがいのあることを増やすなど、やり方を変えて継続してほしい。	継続	サポーター活動件数を増やす取り組みとして、各地域への働きかけ、ポイントの対象となる作業活動の選定・募集を継続実施。	
28	H26	4	読書による人づくり 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ジュニアサポーター養成講座の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 図書館まつりの開催。 「あなたへ贈る一冊」をテーマにはがきコンクールの開催。 【評価内容】 図書館ボランティアの活動が素晴らしいが、伝えていけることが肝心であるため、広く長く継続してほしい。 ソフト面は充実してきたが、ハード面が追いついていないので、将来的にはハード面の充実も視野に入れて継続してほしい。 図書館のいろいろな利用方法が市民に理解されてきて「貸す」「借りる」だけでなく図書館の楽しみ方が広がってきた。今関わっていない人をどう巻き込むかが課題だが、さらに輪を広げながら取り組みを続けてほしい。	継続	・「ブックスタート事業」は「絆スタート事業」と名称変更し、月1～2回、3ヶ月健診へ同書が向向き、絵本の紹介等を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等により、健診等の方法も変更となったため、本年は中止となった。 ・図書館サポーター養成講座は通番19のとおり。 ・中津川えほんジャンボリーは鉱物博物館とコラボレーションし石に関する展示やワークショップを開催した。 ・図書館まつりは1日に集中せず、図書館まつり月間とし、イベントを分散させて開催出来た。 ・はがきコンクールは、応募総数 1,965件 全応募作品展示、地域展示、学校展示(希望校のみ)を行い、表彰式は規模を縮小し開催予定。受賞作品はHPへ掲載。	



通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
29	H26 (H25 実施)	1	個別学習支援事業 【学校教育課】	個別学習指導助手の配置。 【評価内容】 子どもたちの将来のためにはこの事業の人員配置は大きな意味がある。相談面と学習面の2つの支援ができる指導助手を確保することは困難な状況があるため「相談にのれる人」と「学習を教えらるる人」というくりに分けて雇用する等、個別学習支援指導助手を増やし一人でも多く長期欠席している児童生徒を復帰させる取り組みを継続してほしい。	継続	【内容】 指導助手の配置。 【実績】 通常学級・特別支援学級において特別な支援が必要な児童生徒の学習・生活支援、不登校傾向児童生徒の個別支援を行うことで、児童生徒の学力向上や集団への適応に寄与している。 指導助手17名（小学校10校、中学校5校）	令和2年度から会計年度任用職員（個別学習指導助手→指導助手）となります。変更されている。
30	H26 (H25 実施)	2	幼児教育推進事業 【幼児教育課】	幼保小連携協議会の開催。 地域教育支援委員会の開催。 ジョイントカリキュラムの実施。 リーフレット「もうすぐ1年生」の作成・活用。 【評価内容】 幼稚園、保育園、小学校と家庭が連携し学校生活を送るための必要なルールを教えることはもちろんのこと、よりよいひとりだちができる「生きぬく力」を育てることはとても重要なことで継続してほしい。 幼稚園、保育園は先生と保護者のつながりが強いが、小学校は先生と保護者のつながりが弱くなっていく傾向があるので、幼稚園・保育園の保護者と小学校の先生が懇談する場を設ける等、保護者の不安を取り除くことが大事である。	継続	ジョイントカリキュラム（発達や学びをつなぐ幼保小のカリキュラム）を市内全幼保小で実施した。 幼保小連携協議会を市内全小学校区で年3回以上実施した。 地域教育支援委員会を年3回以上実施し、支援の必要な園児・児童の情報を着実に共有した。 リーフレット「もうすぐ1年生」を市内全小学校に作成・配布し、入学説明会の資料として活用した。	
31	H26 (H25 実施)	3	子育てサポーター養成講座事業 【生涯学習スポーツ課】	子育てサポーターリーダー養成講座、子育てサポーター養成講座基礎編の開催。 【評価内容】 この事業は単にサポーターを育成するだけでなく、子育てに悩んでいる親が受講することにより子育ての不安、悩みを解消することができるもの。その受講生が同年代の子育て中の親へ助言をすることができるようになり、輪を広げながら親の安心感につないでいくために受講生を増やす工夫をしながら継続してほしい。	継続	※事業名変更 【現在・子育てマイスター養成講座事業】 県の子育てサポーター制度の廃止に伴い、子育てサポーター制度を、子育てマイスター制度に再構築し、中津川市独自事業として再スタートして3年目。コロナ過で開催延期や日程変更等も多々あるが、受講生の参加率は高い。（令和3年4月より、11月までの受講人数延べ246人）	
32	H26 (H25 実施)	4	苗木城跡保存整備事業 【文化振興課】	二の丸的場跡石垣修復工事。 【評価内容】 長期間取り組んでいる事業でずいぶん整備され変わってきた。「天空の城」みたいなキャッチコピーをつくり、まず市民に関心を持ってもらいたい。市民の誇りになるよう継続して整備してほしい。	継続	通番7に同じ	
33	H25	1	坂本地区教育施設総合整備検討事業 【施設計画推進室】	坂本地区学校、幼稚園、保育園などの総合整備に向けて協議会を開催。 【評価内容】 地域の意見を聞いているだけでは進まない。事業の状況を考えて、教育行政の主導が大切であり、専門的な立場から方向性を示していくように実施方法の見直しと改善を行いスピードをあげて進める必要がある。 リニア駅の近くに学校があるということ是不特定多数の人が出入りすることが可能であり環境的に良く思えない。現在の場所から移転することも視野に入れ、長期的観点から総合計画や都市計画でしっかり位置づけをして取組み、スピード感を持って進めていくことが必要である。	継続	【こども園整備事業】 （幼稚園・保育園一園化） 令和2年4月 坂本こども園開園  【小学校建設事業】【学校給食調理場建設事業】 （坂本文教施設再配置） 令和2年11月 まちづくり協議会教育文化部会にて基本構想案にとりかかるとを説明 令和3年3月 基本構想案（たたき台）をとりまとめ 令和3年度は、令和4年度に予定する旧幼稚園園舎の解体と境内整備（駐車場）、その後の活用方法について地元協議を行う	
34	H25	2	学校施設長寿命化改修事業 【教育企画課】	第一中学校大規模改修補強工事。 加子母中学校屋内運動場大規模改修補強工事。 蛭川中学校大規模改修工事。 【評価内容】 大規模改修により学校が安全な場所になりきれいにもなったという成果が見られる。今後も現場の意見を聞いて進め、子どもたちが勉強しやすい環境づくりをしてほしい。 計画的な推進と同時に学校規模等適正化基本計画の進捗を見据えつつ、改築等の方法も模索する。	継続	平成28年度を最後に老朽対策の大規模改修工事事業は凍結となっている。なお、福岡地区の小学校4校については、令和5年度の統合新築に向けて計画を進めている。 今年度は学校施設長寿命化計画に従い、施設に不具合が生じた際には、その都度、事後保全にて施設の補修を行った。	
35	H25	3	のびのび学習支援指導助手配置事業 【学校教育課】	指導助手の配置。 指導助手を対象とした研修会の開催。 【評価内容】 二人の先生に教えてもらえることで成績が上がったと子どもたちが感じることでできており、必要な事業であることがわかる。縮小することなく拡大していくことが中津川の将来のためになると思う。大勢の手を掛けたり環境づくりをしたら、中津川市が言っている「たくましい子」一人立ちの「できる子」が育つかという疑問も残る。別の視点でも考える必要がある。 多様なニーズに対応するため、指導助手の確保に努める。人の配置だけでなく、効果的な活用の在り方、人材確保について更なる努力を重ねていく。 事業の成果が継続されるように、雇用をしっかりと確保できる仕組みが必要である。	継続	【内容】 さらさ講師B、指導助手の配置。 さらさ講師B、指導助手を対象とした研修会の開催 【実績】 指導助手 17名（小学校10校、中学校5校） さらさ講師B 18名（小学校9校、中学校6校） 通常学級において、担任（教科担任）のサポートとして授業を補助している。授業を複数の教員で行うことによって、よりわかりやすく、楽しい授業づくりを行うことができています。また、児童生徒の学習状況を的確につかむことがしやすく、支援が必要な児童生徒に対して個別に指導を行うことによって、力を伸ばすことができています。	令和2年度から会計年度任用職員（のびのび学習指導助手→さらさ講師B、指導助手）となります。変更されている

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
36	H25	4	ふるさと中津川学習事業 【教育研修所】	郷土学習のための資料作成し学校へ配布。 【評価内容】 中津川市のことを勉強するためにはなくてはならない教材となっている。 中津川市のことを知ってもらうために少しずつでも校正しながらより良いものを作してほしい。 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂は激しい社会の変化に即して実施し、事業の成果を継続させる必要がある。 文化と対応した資料の収集と効果的な提示に努めたい。	継続	【内容】 郷土学習のための資料作成し学校へ配布。 【実績】 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂（すご技プロジェクトの紹介ページを追加） 歴史資料を授業の中で効果的に活用するための指導案の作成。	
37	H25	5	放課後児童健全育成事業 【子ども家庭課】	放課後児童クラブの運営支援。 【評価内容】 共働きが増えていく状況の中、無くては困るしありがたい事業である。 ボランティア指導者をデータバンク化しておく、指導員の負担が減少すると思う。 老朽化が進んでいる施設については、改修を行うなど施設の充実を図る必要があり、拡大して欲しい事業である。 未設置校区にも需要はあると思われる。確かな需要の洗い出しを行い、どの子にも安全・安心な居場所を確保していく。 既設置地域も含めて、ニーズの変化も推測しつつ既存施設を含めた総合的な整備を検討する。校舎改修等とも関連づけていく。	廃止	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番14に記入	重複する為廃止
38	H25	6	郷土資料調査活用事業 【文化振興課】	地域の郷土資料・行政資料の調査とデジタル化。 【評価内容】 郷土の大切な資料を後世に残していく大事な事業なので、ホームページ等でアピールの工夫を工夫し、たくさんの人に知ってほしい。 少ない人数で作業を行っているので、ボランティアの活用を広く古文書が読める等の作業協力者を増員して作業を進めてほしい。 郷土資料の散逸を防ぐため調査の継続とデジタル化に努める。 後継者の育成、増員が必要。 資料収蔵施設の確保が必要。	継続	平成24年度から実施している地域の郷土資料・行政資料の調査は、川上、付知、山口が終了し、坂下、加子母、福岡、蛭川で継続している。 平成30年度より国庫補助事業で、遠山史料館に収蔵している遠山家伝来資料の調査事業を実施している。 令和3年度は引き続き古文書の調査を実施している。	
39	H25	7	子ども金メダル事業 【生涯学習スポーツ課】	文化スポーツ活動で活躍する子どもたちに「中津川市子ども金メダル」を授与。 【評価内容】 選考基準が曖昧な部分があるので内容を精査する必要がある。 東京オリンピックも行われることとなり、金メダルの意味や価値等を子どもにしっかりと認識させ質を高めてほしいと思う。 選考基準を明確化する。授与の方法について検討する。 事業の周知も必要。	継続	子ども金メダルの授与式を毎年継続して実施している。市広報等を通じて、事業の周知に努めている。	
40	H25	8	こころのプロジェクト事業 【生涯学習スポーツ課】	トップアスリートやO.Bの方を招き「夢の教室」を市内全小学5年生を対象に実施。 【評価内容】 子どもたちに夢を持たせる良い事業である。 小学校5年生に固定して継続してほしい。 目的通りの成果が上がっている。中学生への拡大をどうするか試行の成果で評価をする。	継続	市内全小学校5年生を対象にJFAこころのプロジェクト夢の教室を平成23年度から毎年継続して実施している。 今年度は実施できなかった学年を対象に加え、5、6年生に実施した。また、今年度はオンライン形式で実施した。	
41	H25	9	読書活動推進事業 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンプリー事業の実施。 第1回はがきコンクールの開催。 図書館まつりの開催。 【評価内容】 ボランティアの方の活躍により読書活動が盛んになったと思う。 ボランティアの養成をどんどん行い、充実させてほしいと思う。 地域・幅広い年代の参加者を増やし更に充実させたい。 幼保小中の絆プランとつながりを作り、より効果を上げたい。	継続	通番28に記入	
42	H25	10	地域図書室充実事業 【図書館】	公民館図書室の充実。 地域事務所に図書室を設置。 【評価内容】 ボランティアの養成をどんどん行い、地域の図書室を充実させてほしいと思う。 地域図書室の充実、その特色を生かすネットワーク化を進めるとともに、事業の周知をすすめ図書館（室）利用を活発にする。 地域図書室の活動を充実させるために最も大切な「人」という資源について、更に工夫を加える必要がある。	継続	週2回、公民館図書室、図書コーナーへ配本。 各公民館図書室まつり等イベント時の支援。 月1～2回、司書による巡回、業務補助及び指導。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
43	H24	1	移動教育委員会事業 【教育企画課】	地域開催7回。テーマ：①読み聞かせ、読書活動について②学校規模適正化基本計画について 発達支援センター開催2回。 【評価内容】 教育委員と話せる貴重な機会なので継続したいが発言しにくい部分があり方法を変えてほしい。 合併して10年以上経ち別の方法や活性化を求める。 校区の組み合わせ、説明、委員の発言時間等検討し自由な意見を引き出す手法を研いでいく。 テーマについては学校・園代表が議論、意見集約ができるよう早く周知したい。	継続	教育委員会が6地区に出向き「中津川の教育」を説明し、グループに別れテーマについて懇談する会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 発達支援センターでの会は、11月に2回開催。	
44	H24	2	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	パブリックコメント活動の展開。 学校規模等適正化基本計画の完成。 【評価内容】 基本計画はできたが推進事業としては途中である。地域への説明の仕方等改善の必要がある。他市と比較すると進みが遅く説明不足を感じる。「この規模の学校が必要なんだ」という具体的な案を教育委員会がもっと強く指針を出して進めていくことを求める。	継続	通番17に記入	
45	H24	3	確かな学力推進事業 【学校教育課】	読書環境の充実。 「学力アッププログラム」の推進。 【評価内容】 中津川市全体で学力アッププログラムに取組むことはとても良いこと。学力アッププログラムは継続し、司書は増員を求める。学力アッププログラムは学校によって差があるので調整を求める。 学力アッププログラムは子どもが多い家庭、親の仕事等環境に応じた多様な対応が必要である。	継続	【内容】 「学力アッププログラム」の推進。 ※事業名変更 【現在：学力向上支援事業】 今年度も全幼稚園、保育園、小・中学校の園児・児童生徒にプログラムシートを配付し、取り組みを行った。	
46	H24	4	特別支援指導助手配置事業 【学校教育課】	特別支援指導助手の配置 【評価内容】 極めて重要な事業であり、手厚く取り組んでもらっている。指導助手の配置を希望する学校に対し、配置が100%ではないので増員を求める。	継続	【内容】 特別支援指導助手の配置 【実績】 市内小中学校12校に14名を配置。通常学級における特別に支援が必要な生徒の学習指導や生活支援に当たっている。大人数の集団の中では、力を伸ばせない児童生徒が個別の支援によって、それぞれに力を伸ばせるようになっている。	令和2年度から会計年度任用職員となり、「個別学習指導助手」と「特別指導助手」が一本化され、「指導助手」として各校に配置されている。
47	H24	5	子ども自立援助事業 (適応指導教室) 【教育研修所】	適応指導教室における教育相談・登校支援。 教育相談に係る研修会の実施（年6回）。 【評価内容】 極めて重要な教室である。指導員の確保、増員を求める。 一人ひとりに応じ、きめ細かい指導が行われ、良い結果に結びついているが、指導員に対しても手厚い配慮が必要である。	継続	【内容】 ・適応指導教室における教育相談・登校支援。 ・教育相談に係る研修会の実施（年6回）。 【実績】 ・適応指導教室相談件数471件（令和2年実績） ・通室希望者が増える中（通室者13人）で、着実に学校復帰ができた児童生徒数（復帰・回復）も増えている。 ・教育相談ネットワーク研修会（年4回）を教育相談コーディネーターを中心に研修を進めた。	
48	H24	6	公立保育園耐震改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	耐震化未実施の園への耐震補強・改修（蛭川・一色・坂本保育園）。 【評価内容】 計画通り進んでいる。 建物の耐震化だけではなく、危険箇所、非構造部材等の対策も早くできるように求める。	継続	公立保育園の耐震化については完了している。 保育園については老朽に対する大規模改修事業の国庫補助がないため、老朽対策ができていないことが課題。 【保育所施設整備事業】 今年度は、老朽化の著しい以下の工事を実施した。 ・福岡保育園園舎屋根改修工事 ・付知保育園トイレ改修工事	
49	H24	7	芸能文化人づくり事業 【文化振興課】	地域伝統芸能文化活動支援。 芝居小屋等の利用・活用・保存整備。 【評価内容】 伝統を継承している団体の支援となっている。伝統芸能継承のために活動している団体に事業の周知を求める。 子どもの時から教える必要があるため、小学生に呼びかけを求める。 アピールして参加者を増やすことを求める。 子どもたちが一度の経験で終わらず、保存会に定着できるような魅力づくりと手助けが必要である。補助金に依存しない保存会活動の強化も課題である。	継続	本年度も伝統を継承している団体の活動支援を行った。 また、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの団体が活動の中止を余儀なくされた。	
50	H24	8	スポーツ団体・スポーツ事業等支援事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ関係団体への助成。 全国大会の誘致。 指導者育成のための講演会・講習会に対する助成。 【評価内容】 スポーツを通して人とのつながりを持てる大切な事業である。 交付金だけを頼らず、自立させるよう導くことを求める。 企業を巻き込む等、手法を考えながら拡大していくことを求める。	継続	スポーツ団体や大会の支援を継続して実施。平成28年度からは企業の協賛金を募りながら、清流木曾川中津川リレーマラソンが開始されるが今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見送った。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
51	H24	9	家庭教育支援事業 【生涯学習スポーツ課】	家庭教育専門講座の推進。 子育てサポーター養成講座の開講。 公民館の乳幼児学級の支援。 【評価内容】 今は核家族が増え、孤立する親を支援する必要がある。より多くの人に家庭教育を勉強してもらうための手段の工夫を求める。 ITを活用し、ホームページで子育て相談等をすすめる。 事業内容を細かく分けて、一人ひとりにあった支援を求める。 子育てサポーターは子育て世代や女性だけでなく、祖父母の年代等幅広い受講者を取り入れていくのも重要である。	継続	家庭教育専門講座の推進として「親子の絆づくりプログラム（愛称BP）」→初めての子どもを育てる親同士の学びの講座。「ノーバディーズパーフェクトプログラム（NP）」→親同士が学びあう託児付きの講座を実施。コロナ過で日程変更等があるにも関わらず多くの受講者が仲間づくりや家庭教育についての学びを深めている。 子育てマイスター養成講座の開講。受講者は20代～70代の子育て中の親から、孫育ての方まで多岐にわたり、その中で交流も深まっている。 全13公民館の乳幼児学級を継続支援。	
52	H24	10	中津川市市民国際交流事業 【生涯学習スポーツ課】	中学生及び一般スタッフの海外派遣研修。 【評価内容】 参加した中学生は一段とたくましくなり、誰もが「貴重な経験をした」と感想を残している。現在のみまで十分な体験ができている。行き先はタイを続けてほしい。 学校内では結果報告がなされているが、良い事業なので市民への広報が必要である。	継続	中学生及び一般スタッフのタイ王国への海外派遣研修を実施していたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施を見送った。今年度は事業PRのためのチラシを作成し、市内の小学5、6年生と中学1年生に配布した。	
53	H23	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等24件。 【評価内容】 審議事項はもとより、今後も報告・協議事項についても積極的に議論を行い施策の推進を図っていく。	継続	定例会12回、臨時会1回、協議会12回開催。	
54	H23	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換等の実施。 市長等との懇談会の実施。 【評価内容】 懇談会等の内容を周知させる方法を検討し活動実態やその大切さを多くの方にとって頂くことができると良い。	継続	移動教育委員会事業、学校規模等適正化事業へ移行。	
55	H23	3	遠距離通学事業 【教育企画課】	定期券支給（小学校44人中学校21人） 補助金支給（小学校35人中学校11人） 【評価内容】 学校環境の変化に合わせ適切に対応していく。	継続	定期券支給（小学校48人中学校10人） 補助金支給（小学校25人中学校8人）	
56	H23	4	学校給食管理事業 【学校教育課】	学校給食の実施。 栄養職員・調理員研修の実施。 給食業務従事者の腸内細菌検査実施。 【評価内容】 より安全安心な給食提供のため、調理員研修の充実を図る必要がある。	継続	【内容・実績】 学校給食の実施。 栄養職員・調理員研修の実施。 給食業務従事者の腸内細菌検査実施。	
57	H23	5	中津川市教育史料調査事業 【教育研修所】	明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行。 「興風学校日誌」として改訂版発行。 【評価内容】 学校に多くの貴重な資料が保管されており、事業のあり方、従事する方々の充実等含め発展的に進めていただきたい。	継続	【内容】 明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行。 「興風学校日誌」として改訂版発行。 【実績】 資料のデジタル化を継続的に実施。	
58	H23	6	児童館運営事業 【子ども家庭課】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度のもとで民間ノウハウを生かして運営されており良い結果がでている。経年の適切な評価を実施しながら継続を検討していく。	継続	児童館4館を指定管理制度により、学校法人恵峰学園が運営。緊急事態宣言発令等により新型コロナウイルス感染症対策のため8月23日～9月30日まで休館。10月1日からは感染対策を行い開所。	
59	H23	7	子育て支援事業 （地域子育て支援拠点事業） 【子ども家庭課】	利用者数（中津川9,364人、福岡3,329人、加子母2,234人、坂本7,048人） 交流の場の提供、子育て相談の実施。 各センターにおいて年齢別ひろば等を開催。 【評価内容】 福祉部門との連携強化を図りながら、相談しやすい環境づくりによりリピーターを増やす施策に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	子育て支援センター（直営2か所、運営委託4か所）を運営。未設置地域では出張ひろばを開催。 蛭川地域において蛭川子育て支援センターひろばを再開。 新型コロナウイルス感染症対策のため、感染予防を徹底し利用者を制限し実施。 緊急事態宣言発令等により新型コロナウイルス感染症対策のため8月23日～9月30日まで休館。10月1日からは感染対策を行い開所。	
60	H23	8	地域療育推進事業 【幼児教育課】	発達相談・検査1,124人。 訪問相談343人。 発達障がい理解促進講演会、研修会、相談会等の開催。 【評価内容】 福祉部門との連携を図りながら、臨床心理士等の専門職の確保に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	※事業名変更 【現在：子ども相談・支援事業】 発達相談及び必要に応じた発達検査の実施。 早期発見や適切な支援を行うため、幼児・小中学校からの依頼により心理士による訪問指導を実施。 保育士を配置し、支援の必要な幼児への関わりについて助言指導を実施。	
61	H23	9	文化財保護調査活用事業 【文化振興課】	指定文化財289件の管理。 国指定苗木城整備事業については帯曲輪石垣修復整備。 【評価内容】 広域化した市の現状から担当部署の行動力と地域との連携が不可欠。県内外を問わず観光部門とも連携しながら積極的に広報する姿勢と、文化財等の歴史的重要性が周知される必要性を感じる。	継続	引き続き指定文化財289件の管理を実施。 落合本陣では、平成29年度より毎週日曜日、祝日及び予約のある日に、案内ボランティアによる公開を実施している。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
62	H23	10	青少年健全育成事業 【生涯学習スポーツ課】	13支部3分会で青少年健全育成活動実施。 夜間パトロールや補導活動の実施。 青少年悩みごと相談実施。 【評価内容】 研修の充実をはかりスキルアップしていく必要性を感じる。 青少年悩みごと相談は相談件数が少ないようなので、相談の時間帯の変更等の検討も視野に入れ更なる充実を図ってほしい。	継続	13支部3分会で青少年健全育成活動実施。 夜間パトロールや補導活動を実施。 青少年悩みごと相談については、制度の周知を図りながら実施した。 中津川市青少年健全育成大会については、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施を見送った。	
63	H22	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等41件。 【評価内容】 教育委員会の権限に属する事務については適切に管理・執行することができた。 協議会において積極的に議論を行い施策の推進を図ることができた。	継続	通番53に記入	
64	H22	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換の実施。 市長との懇談会の実施。 【評価内容】 移動教育委員会は地区開催と発達支援センターの開催回数をそれぞれ1回ずつ増やし、より多くの保護者からの意見聴取に努めることができた。 学校規模等適正化については地区説明会を行い課題の検証に努めることができた。	継続	通番54に記入	
65	H22	3	小学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本小学校特別教室増築工事。 苗木小学校身障者用施設改修工事。 坂下小学校屋内運動場便所改修工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増え、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。 今年度は老朽化が著しい以下施設の工事を実施した。 ・坂本小学校外壁浮き部撤去補修工事 ・坂本小学校プール給水管漏水復旧工事	
66	H22	4	中学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本中学校屋外便所新築工事。 苗木中学校管理棟屋上防水改修工事。 福岡中学校汚水専用ポンプ取替工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増え、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。 今年度は老朽化が著しい以下施設の工事を実施した。 ・第二中学校飲料水用受水槽補修工事 ・苗木中学校体育館雨漏り補修工事	
67	H22	5	スクールバス運営事業 【教育企画課】	加子母・福岡・付知地区7台スクールバス運行。 坂下・川上スクールバス運行委託。 【評価内容】 義務教育の機会均等の確保と保護者の負担軽減を図ることができたと評価する。 学校規模適正化の方向性により手段を見直すことも必要である。	継続	加子母地区2台、付知地区1台、福岡地区4台スクールバス運行 坂下（山口・川上）地区スクールバス運行委託 福岡地区のスクールバスを老朽化のため2台更新	
68	H22	6	小学校管理費 【学校教育課・教育研修所】	命の教育、ふれあい交流科学探検、文化鑑賞、通級指導教室の実施。 【評価内容】 事業目的に沿った計画・実施がされているものと評価する。 豊かな心を育むための情操教育や命の教育等の取組は今後更に重要となる。 通級指導教室のニーズも増加しており充実した運営が求められる。	継続	【内容】 命の教育、ふれあい交流科学探検、通級指導教室の実施。 ※現在、いのちの教育の授業は学力向上支援事業へ 【実績】 幼稚園、保育園、小・中学校で年間複数回の命の教育の授業や活動を実施。夏に合同研修会を実施。秋に福岡小学校で実践授業を公開した。	
69	H22	7	子ども自立援助事業 【教育研修所】	適応指導教室の自立支援（相談件数1493件）。 個別指導サポーター対象校3校各1名配置。 教育相談ネットワーク会議等の開催。 【評価内容】 子どもたちの心の不安の解消や健全な成長のために様々な取組が実施できていくこととなり、将来的な方向性を示すことができたことと評価する。 国の幼保一体化等の推進政策を見据え、保護者等の理解を得ながら計画的に取組んでいく必要がある。	継続	【内容】 不登校傾向のある児童生徒の不登校未然防止、不当校児童生徒の学校復帰を目指すため、校内支援員等の配置や、適応指導教室において教育相談員を配置し支援を行う。心理カウンセラーの配置、メンタルフレンド、個別相談アシスタントの派遣を行い、個々の状況に合わせた支援を行う。 【実績】 適応指導教室へ教育相談員の配置（かやの木教室4人、あけぼの教室3人）、個別相談アシスタント2人、心理カウンセラー1人配置、スクールカウンセラーの学校へ配置、問題を抱えた児童生徒の相談のためスクールソーシャルワーカー（1人）を配置	
70	H22	8	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 適正化計画のPTA・地域住民への説明。 【評価内容】 規模等適正化の中で幼保一元化や私立への移行を含めて検討していくこととなり、将来的な方向性を示すことができたことと評価する。 国の幼保一体化等の推進政策を見据え、保護者等の理解を得ながら計画的に取組んでいく必要がある。	継続	公立幼稚園5園での幼児教育実施。 私立幼稚園と協力しながら、幼児教育を希望する児童を全て受け入れることができた。 R3年5月に中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画を策定した。	
71	H22	9	保育園大規模改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	落合・小鳩保育園耐震改修。 坂下保育園給食室改修。 【評価内容】 2園舎の耐震改修を行うことができた園児の安心・安全について推進できたと評価する。 今後も施設の耐震化等は計画的な取組が必要である。	廃止	通番48に記入	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
72	H22	10	児童館運営事業 【子ども家庭課】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 乳幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度による施設運営については、随時その運営状況を検証・評価していく必要がある。	継続	通番58に記入	重複する為廃止
73	H22	11	発達支援事業 【発達支援センター】	通所児262人（つくしんぼ150人、どんぐり112人） 医療法士等による療育指導、保護者のための講演会や職員研修の実施。 【評価内容】 希望する全員の入所が可能になるよう指導員体制を拡充できたと評価する。 H21年度から総合事務所管内の5施設を「児童デイサービス事業所」として組織化（どんぐり）し、市の発達支援センターとして一体的に運営できるようになったと評価する。 個々のニーズに応えるきめ細やかな取組が求められており、各施設の機能強化と発達相談室・園・学校との連携強化を図っていく必要がある。	継続	通番11に記入	
74	H21	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、協議会12回、審議件数等36件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番53に記入	
75	H21	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 校長会理事会との意見交換の実施。 小諸市視察の実施。 学校規模等適正化検討委員会への諮問。 【評価内容】 学校規模等適正化への取組に着手することができた。 学校規模等適正化への取組は今後より多くの意見を集約し、教育振興基本計画等により教育委員会の基本姿勢を明確に示していく必要がある。	継続	通番54に記入	
76	H21	3	中学校教育振興事業 【教育企画課】	中学校授業のための教材備品の整備。 【評価内容】 各校の実情をヒアリング等により把握に努めるとともに、適切な予算執行ができたことと評価する。 授業を直接的に支える事業として更に拡充していく必要がある。	継続	学校からの要望について、計画的にヒアリングを実施し、把握をすることで適切な予算執行を行うことができた。	
77	H21	4	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率76%（入居60戸/全79戸） 【評価内容】 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設について整理計画を策定し、改善に向けての道筋を付けることができたことと評価する。	継続	教員住宅の維持管理を継続して実施する。（管理戸数58戸、入居29戸）	管理戸数のうち8戸は解体待ちの状態。
78	H21	5	中学校教育充実事業 【学校教育課】	中学校理科備品及び図書整備。 中学校就学支援。 【評価内容】 理科備品については、理科教育振興事業を活用し対象校の実情に応じた有効かつ効率的な整備がされたことと評価する。 図書整備は学校毎の創意工夫により効率的に整備がされたことと評価する。更に運用面を含めた充実に努めていくものとする。 就学支援については地域ネットワークの活用推進を図る。	継続	【内容・実績】 学校図書室図書の整備、充実 学校活動の充実と教育活動の推進	
79	H21	6	『ふるさと中津川』学習事業 【教育研修所】	社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）。 【評価内容】 「ふるさと中津川」「中津川市地図」については社会事象の変化を取り込んだ適切な内容に改訂されたことと評価する。 使用する写真等については今後も随時改訂を行っていく必要がある。	継続	【内容・実績】 社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）。	
80	H21	7	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 【評価内容】 園児数の減少等の課題に対し、適正化検討委員会の答申をもとに今後の在り方についての計画を策定する必要がある。	継続	通番70に記入	
81	H21	8	私立幼稚園助成事業 【幼児教育課】	私立幼稚園（4園）への運営助成。 【評価内容】 年齢及び園児数に応じた助成により幼児教育の充実に寄与できたものと評価する。	継続	私立幼稚園3園への運営への助成により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。	
82	H21	9	私立幼稚園就園奨励事業 【幼児教育課】	私立幼稚園保護者への助成事業（H20年度対象者480名） 【評価内容】 保護者の所得に応じた助成により保護者の経済的負担を軽減するとともに私立幼稚園の振興にもつながったものと評価する。	廃止	保護者への財政支援により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。 令和元年度対象者 342人	
83	H21	10	高等学校費 【阿木高等学校】	阿木高校の運営（在校生徒数4学年209名）。 【評価内容】 昼間定時制として他にはない特色ある運営がされていると評価する。	継続	阿木高校の運営（在校生徒数：5月1日現在、4学年93名）。	少子化に伴い、生徒数が減少している。小・中学校から指導の継続が必要な生徒の割合が増えている。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和3年度）の内容・実績	備考
84	H20	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、臨時会1回、協議会12回、審議件数等38件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番53に記入	
85	H20	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 青年会議所・広報会長会との意見交換の実施。 市内保育所・小中学校現地調査の実施。 【評価内容】 関係者からの意見を移動教育委員会により集約できた。 教育分野以外の団体との意見交換を教育懇談会の中で実施できた。 対象の輪をより一層拡大し教育施策へ反映すべく意見集約に努めて欲しい。	継続	通番54に記入	
86	H20	3	奨学資金貸付事業 【教育企画課】	大学生47人高校生15人への貸与。 制度改正（専修学校を貸与対象、遠距離通学高校生のための資格要件緩和）。 【評価内容】 貸与額、予算率は県内トップレベルであり市民ニーズに応える制度であると高く評価する。 貸付対象の拡大等の制度改正を行い、利用者のための利便性を向上できたものと評価する。	継続	高校生1人、大学生27人、専修学校生9人へ新規貸与。	
87	H20	4	小学校大規模改造補強事業 【教育企画課】	苗木小学校耐震化・大規模改修工事。 翌年度以降に耐震化する校舎等の計画と設計の委託。 【評価内容】 施工方法を見直し視界を妨げないかたちで校舎の耐震化を図ることができたことは高く評価できる。 校舎の耐震化を最優先させた実施計画は適切なものである。	廃止	校舎の耐震化については完了している。老朽化改善のための大規模改修工事については、平成28年度を最後に凍結となっている。	
88	H20	5	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率84.8%（入居67戸/全79戸） 【評価内容】 老朽化等により利用されない教員住宅もあり非効率な面がある。 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設は取壊しの計画を策定する。	継続	通番77に記入	
89	H20	6	中学校能力開発事業 【学校教育課】	ALT等講師派遣。 サマーサイエンススクールの実施。 部活動・情操教育への助成。 【評価内容】 ALT事業は本物の英語を学ぶ機会として評価できる。 サマーサイエンススクールは高い科学の体験学習ができる貴重な機会として評価できる。 それぞれの事業の手法にはなお改善の余地はある。 重点的に取組むべき対象と方向性は妥当である。	廃止	【内容・実績】 岐阜サマーサイエンススクールはオンライン講義で実施した。 市内122名、市外17名の中学生が参加した。 ※サマーサイエンス事業への負担金として、中津川市未来を担う人材育成事業で継続中 ※ALT等講師派遣も、学力向上支援事業で継続中である。	
90	H20	7	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	年間89回の学校訪問指導、年間56回の研修会の実施。 教育実践論文、研究紀要の発刊・配布。 【評価内容】 学校訪問と各種研修会は回数も多く精力的に実施されている。 教育実践論文等の発刊など広範囲な取組がされている。	継続	【内容】 教師の事業力向上に向けての取組 【実績】 年間90回以上の学校訪問、年間57回の研修会の実施。 教育実践論文等、研究紀要の発行・配布	
91	H20	8	公立保育所運営事業 【幼児教育課】	公立保育園17園の運営と維持管理。 【評価内容】 運営と園児の受け入れは目標が達成されてきたものと評価できる。 少子化社会に相応した運営が必要であり、効率性、有効性において改善の余地がある。	継続	公立保育園等（認定子ども園1園含）15園での保育実施。 民間との協働のもと受入体制を整え、R3年12月現在の待機児童数は0人。 R3年5月に中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画を策定した。	
92	H20	9	法人保育所運営事業 【幼児教育課】	法人保育園6園への保育事業の委託。 【評価内容】 民間の特徴である機動力と柔軟性、効率性によりその運営も円滑に行われていると評価する。	継続	法人保育所6園、認定子ども園2園、小規模保育事業所2園への保育の委託や財政的支援を実施。 民間との協働のもと受入体制を整え、R3年12月現在の待機児童数は0人。	
93	H20	10	放課後児童健全育成事業 【子ども家庭課】	国庫補助対象の放課後児童クラブ13箇所への事業委託。 【評価内容】 現状の放課後児童クラブのニーズへの対応は十分ではないと考えられる。 施設の確保、指導者育成の面からの支援を拡充する必要がある。	継続	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番14に記入	重複する為廃止